

須崎キリシタン墓碑群

風光明媚な加津佐町は、山と海に挟まれた河口のそばにあります。この町の仏教墓地には、合計 6 基のキリシタン墓碑（正確には 5 基のキリシタン墓碑と 1 点のキリシタン関連遺物）があります。1 基は単独で建てられており、5 基は別の場所に一列に並んでいます。

最も興味深いのは、単独の墓碑です。長崎周辺にみられるキリシタン墓碑のほとんどは、安山岩やデイサイトといった地元で採れる灰色の火山岩で作られているのに対し、この墓碑は天草から運ばれたピンク色の砂岩で作られています。高価な輸入材が使われていることは、17 世紀初期、この地域に並外れた経済力を持つ住民がいたことを示しています。この墓碑は平置き半円柱型で、全長は非常に長い 1.2 メートルです。

保存状態の良い碑銘は、取り外し可能な金属製のカバーで保護されています。銘の左端の行には「ルイス」という洗礼名が刻まれています。次の行には、故人が亡くなった年齢が 19 歳もしくは 29 歳であることが記されています。その次の行には、亡くなった日付が記されています。「2 日」というのは見てとれますが、どの月かは読み取れません。右端の行に刻まれている慶長十八年（1613 年）は、全国にキリスト教禁教令が出された前年です。

他の 5 基は一か所に集められています。そのうち 2 基は平置き半円柱型で、別の 2 基は平板型、そして 1 基は墓碑の断片です。平板型の墓石の両方に十字架が彫られています。片方は横棒が 1 本のラテン十字、もう片方は横棒が 2 本の形十字です。平板型の石は、かつては半円柱型の墓石の土台であった可能性があります。また、平置き半円柱型の 2 基のうち、小さい方は子どもの墓碑だった可能性があります。

日本のキリシタン墓碑について

日本におけるキリスト教の初期につくられたキリシタン墓碑として確認されている 192 基のうち、146 基が長崎県にあり、その全てが 17 世紀初期のもので、（1581 年につくられた日本で最も古いキリシタン墓碑は、大阪市に近い四條畷市にあります。）長崎地域のキリシタン墓碑は、当時のヨーロッパの墓のデザインを反映し、平板型・切妻型・半円柱型・角柱型のいずれかに整形した石を平置きにしたものがほとんどです。仏教の墓石には漢字数文字からなる故人の死後の名前（戒名）が刻まれるのに対し、キリスト教の墓石には、多くの場合、西洋式の洗礼名が記されます。花十字や横棒が二本の形十字、イエス・キリストの名前の略語である「HIS」という 3 文字で飾られていることもあります。石の墓標は高級品だったため、墓碑で弔われているのは金銭と権力に恵まれた人々だったと考えて良いでしょう。キリスト教が禁止された後、このような平置き墓石の中には、くり抜かれて手を洗うための手水鉢にされたり、石垣に組み込まれたり、地中に埋められたりして、仏教の建造物の一部に転用されたものもありました。長崎のキリシタン墓碑は、ほとんどが当初置かれた場所には残っていないものの、もとの設置場所の付近で発見されることがよくあります。